

# 第101回 ロシアの発展①

## 1 ロシアの発展

- ・13～15世紀にかけてロシア人はモンゴル人の（ ）の支配下にあり、ロシア人の（ ）はその属国であった。  
→1380年、キプチャク=ハン国を破ってほぼ自立した。



イヴァン3世  
モスクワ大公国の領土を拡大させた。「ツァーリ」は「カエサル」に由来する。

☆モスクワ大公国（1325年ころ～16世紀）

都…（ ） ※現在は（ ）の首都

◆（ ）（在位1462～1505年）

- ・1480年、キプチャク=ハン国から完全に独立し、モンゴルの支配から脱した。
- ・滅亡したビザンツ帝国の皇女ソフィアと結婚していたことから、ロシア語で「皇帝」を意味する（ ）を自称し始めた。
- ・正教会の中心はロシア正教会となり、モスクワは「第3のローマ」と呼ばれた。



イヴァン4世  
ツァーリによる専制体制を、ツァーリズムという。

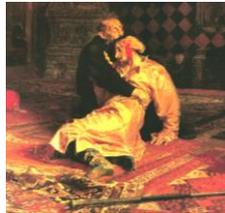
◆（ ）（イヴァン雷帝）（在位1533～1584年）

- ・ツァーリの称号を正式に使用し、貴族をおさえて中央集権体制を確立した。
- ・ヴォルガ川流域のカザン=ハン国やアストラハン=ハン国を征服した。
- ・（ ）の首長（ ）に、シベリア遠征を行わせた。
- ・しかし晩年には恐怖政治を行うようになり、国力は疲弊していった。  
→イヴァン4世の死後、モスクワ大公国は内乱状態となり消滅した。



映画『イワン雷帝』

ソ連の名匠エイゼンシュテインが監督した。イヴァン4世を1部では英雄、2部では孤独な独裁者として描いた。モデルはスターリンらしい。



レーピン作「イヴァン雷帝と皇子イヴァン」

イヴァン4世は、いさかから息子イヴァンを殴り殺してしまった。正気に戻ったイヴァン4世が、茫然とした表情で息子を抱きしめている。



聖ヴァーシリー聖堂

モスクワの赤の広場に立つ聖堂。イヴァン4世が建立した。現在はレーニン廟がとりに立っている。

## 2 ロシア帝国の成立

- ・モスクワ大公国の崩壊後、ロシアでは内乱が続き混乱状態となった。  
→1613年、大貴族の（ ）がツァーリ（皇帝）に選ばれた。  
→内乱をおさめ、ロマノフ朝を創始した。



ミハイル=ロマノフ  
300年続くロマノフ朝の創始者ではある。

☆（ ）（1613～1917年）

都…モスクワ→ペテルブルク

- ・ロシア皇帝に権力が集中するロシア独特の政治体制をツァーリズムという。
- ・17世紀半ばには、穀倉地帯であるウクライナ地方を獲得した。
- ・1670年、コサックや農民が、（ ）を起こした。

